

月次運用レポート



フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド

 Aコース（為替ヘッジ付き） 愛称：悠々債券(ゆうゆうさいけん)
 追加型投信／内外／債券

2020年9月

設定日：1998年9月30日

信託期間：原則として無期限

決算日：原則として毎月20日(休業日の場合は翌営業日)

※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

■基準価額・純資産総額の推移

	2020/8/31	2020/7/31
基準価額	5,936 円	5,963 円
純資産総額	383.9 億円	388.8 億円
累積投資額	16,857 円	16,877 円

直近分配金	20 円
設定来分配金合計	8,540 円

基準価額 (月中)	高値	5,997 円	(8月7日)
	安値	5,932 円	(8月28日)
基準価額 (設定来)	高値	10,535 円	(2003年6月16日)
	安値	5,388 円	(2020年3月24日)
累積投資額 (設定来)	高値	17,000 円	(2020年2月21日)
	安値	9,518 円	(2000年12月5日)
ヘッジ比率	99.71% (2020年8月31日)		

※分配の推移は次ページにて掲載

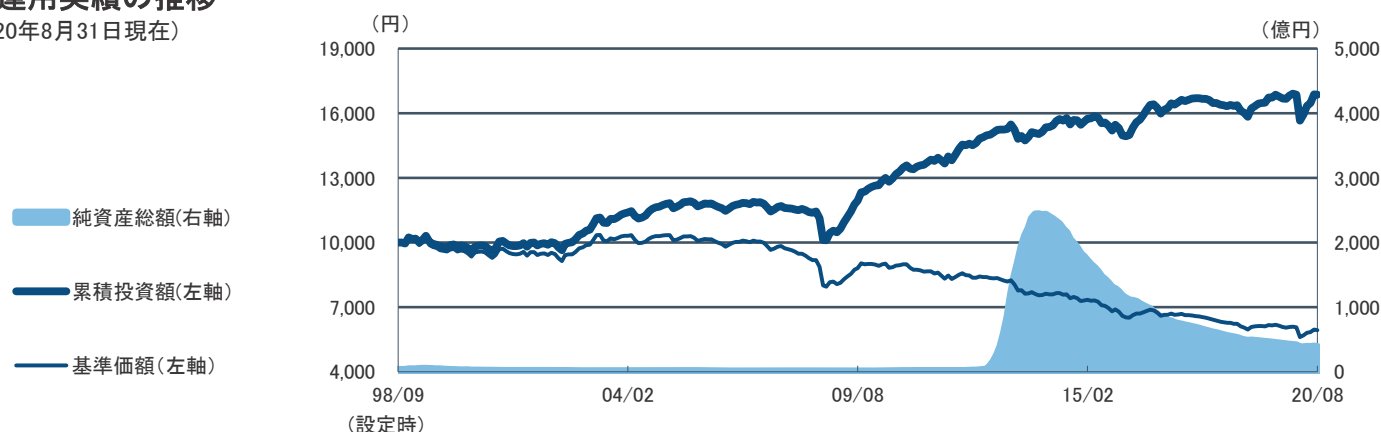
■累積リターン

(2020年8月31日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-0.12%	3.19%	0.00%	-0.03%	1.07%	68.57%

■運用実績の推移

(2020年8月31日現在)



※基準価額は、運用管理費用(後述の「運用管理費用(信託報酬)」参照)控除後のものです。

※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。

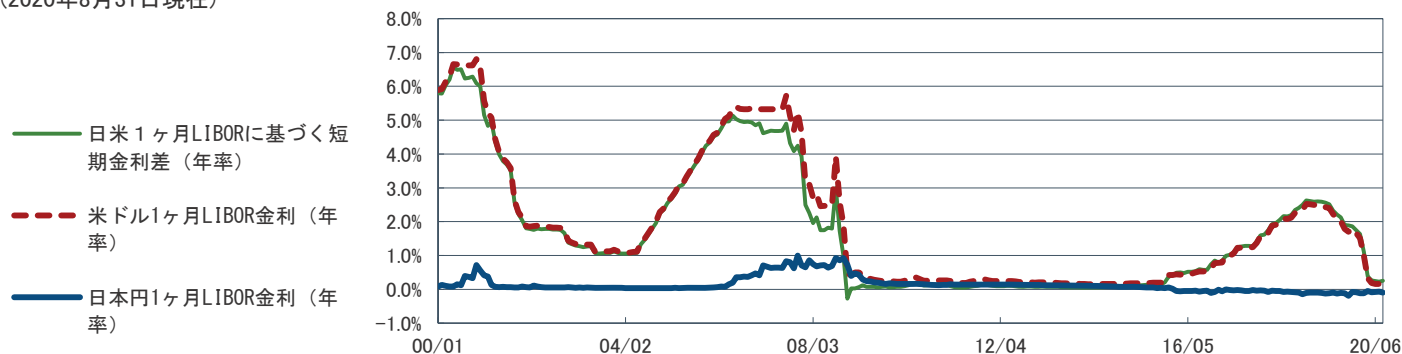
※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。

※当該ファンドは、為替ヘッジ付きのインデックスが存在しない為、ベンチマークを設定していません。

※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

■(ご参考)日米短期金利差の推移

(2020年8月31日現在)



※ブルームバーグをもとにフィデリティ投信が作成しています。期間は2000年1月から当資料作成時点までです。短期金利差は、米ドル1ヶ月LIBOR金利(年率)から日本円1ヶ月LIBOR金利(年率)を引いて算出しています。当データは、ファンドの実際の為替ヘッジコスト(もしくはプレミアム)を示したのではなく、入手可能な市場データを使って理論的な為替ヘッジコスト(もしくはプレミアム)を示したご参考データです。

月次運用レポート



フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド

Aコース（為替ヘッジ付き） 愛称：悠々債券（ゆうゆうさいけん）
追加型投信／内外／債券

2020年9月

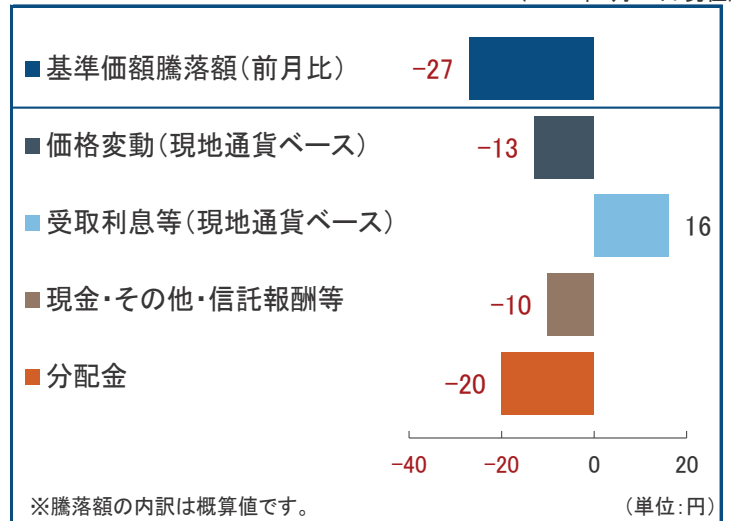
■分配の推移(1万口当たり／税引前)

(2020年8月31日現在)

決算期	日付	分配金
第1期	99年1月	80円
第2期	99年2月	30円
第3期	99年3月	0円
第4期	99年4月	20円
第5～45期	99年5月～02年9月	10円
第46～51期	02年10月～03年3月	20円
第52～54期	03年4月～03年6月	25円
第55～76期	03年7月～05年4月	30円
第77～80期	05年5月～05年8月	15円
第81～106期	05年9月～07年10月	10円
第107～109期	07年11月～08年1月	35円
第110期	08年2月	40円
第111～114期	08年3月～08年6月	50円
第115～119期	08年7月～08年11月	55円
第120～129期	08年12月～09年9月	60円
第130～150期	09年10月～11年6月	70円
第151～157期	11年7月～12年1月	55円
第158～179期	12年2月～13年11月	60円
第180～214期	13年12月～16年10月	40円
第215～225期	16年11月～17年9月	30円
第226～259期	17年10月～20年7月	20円
第260期	2020年8月20日	20円
直近1年計	19年9月～20年8月	240円
設定来累計		8,540円

■基準価額の月間騰落額の内訳

(2020年8月31日現在)



※分配金は過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。また運用状況によっては分配を行わない場合があります。

※為替ヘッジコスト(もしくはプレミアム)は、現金・その他・信託報酬等を含めて表示しています。

※基準価額の月間騰落額の内訳は概算値であり、実際の基準価額の変動を必ずしも正確に説明するものではありません。あくまで参考情報として提供することのみを目的としており、将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。

■ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

(2020年7月31日現在)

◆組入上位10銘柄 (組入銘柄数: 796)

順位	銘柄	クーポン	償還日	格付	比率
1	米国国債	2.5%	2045/2/15	AA/Aa	3.7%
2	ドイツ国債	0.25%	2029/2/15	AAA/Aaa	3.2%
3	米国政府保証債	5.5%	2023/9/18	AA/Aa	2.5%
4	ドイツ国債	0%	2024/4/5	AAA/Aaa	2.5%
5	米国国債	2.875%	2025/11/30	AA/Aa	1.8%
6	米国国債	3%	2049/2/15	AA/Aa	1.7%
7	米国国債	2.5%	2022/1/15	AA/Aa	1.7%
8	米国国債	2.75%	2025/6/30	AA/Aa	1.6%
9	米国国債	2.25%	2021/7/31	AA/Aa	1.5%
10	米国国債	4.75%	2037/2/15	AA/Aa	1.4%
上位10銘柄合計					21.5%

◆国・地域別組入状況

順位	国・地域	比率
1	アメリカ	58.3%
2	ドイツ	6.1%
3	カナダ	3.7%
4	オランダ	3.2%
5	イギリス	3.0%
6	イスラエル	2.7%
7	日本	2.5%
8	メキシコ	1.3%
9	ケイマン諸島(英領)	1.1%
10	その他	15.0%

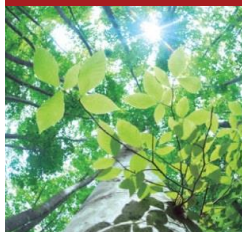
(対純資産総額比率)

※銘柄はご参考のため、英文表記の一部をカタカナで表記しております。実際の発行体名と異なる場合があります。

※クーポンは、銘柄属性として発行時に定められたものを表示しております。

※格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(表示方法は「プラス/マイナス」の符号を省略し、S&P社/ムーディーズ社を表記しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

※国・地域は発行国・地域を表示しています。



月次運用レポート



フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド

Aコース（為替ヘッジ付き） 愛称：悠々債券（ゆうゆうさいけん）
追加型投信／内外／債券

2020年9月

（2020年7月31日現在）

◆資産別組入状況

債券等	95.8%
転換社債	0.6%
株式	0.6%
現金・その他	3.1%

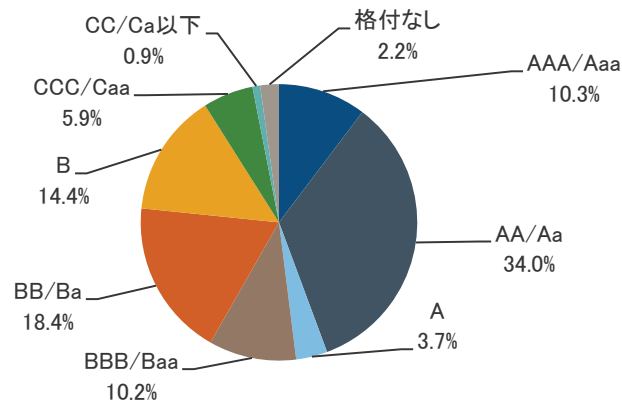
◆組入債券種別内訳

米国国債・政府機関債	30.6%
ハイ・イールド・ボンド	38.7%
先進国債券（除く米国）	15.8%
エマージング債券	14.9%

◆通貨別組入状況

アメリカ・ドル	84.2%
ユーロ	8.0%
イギリス・ポンド	2.7%
日本・円	2.6%
カナダ・ドル	2.5%

◆格付別組入状況



◆ポートフォリオの特性値

	2020/7/31	2020/6/30
最終利回り	4.3%	4.9%
直接利回り	4.1%	4.3%
修正デュレーション	6.3	6.3
平均格付	BBB/Baa	BBB/Baa

（対純資産総額比率、但し、格付別組入状況は対投資債券比率、組入債券種別内訳および通貨別組入状況は対投資資産比率）

※債券等には、金銭債権が含まれます。

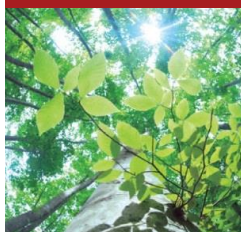
※未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

※格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。（表示方法は「プラス／マイナス」の符号を省略し、S&P社／ムーディーズ社を表記しています。）なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

※ポートフォリオの特性値は、計算日時点の参考値であり、将来の利回りや運用成果を保証するものではありません。

※最終利回り、直接利回りは、債券等と転換社債の部分、修正デュレーションは債券等の部分で算出しております。

※平均格付は、基準日時点においてファンドが保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当ファンドに係る信用格付ではありません。



月次運用レポート



フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド

Aコース（為替ヘッジ付き） 愛称：悠々債券（ゆうゆうさいけん）
追加型投信／内外／債券

2020年9月

■コメント

（2020年8月31日現在）

◆市場概況

【米国国債】

米国債券市場では、雇用情勢の回復動向や金融政策の先行きに注目が集まりました。7月の米非農業部門雇用者数は176.3万人増と、3カ月連続で市場予測を上回る結果となったものの、前月の増加幅からは大きく鈍化しました。米連邦公開市場委員会（FOMC）が、月末に、ゼロ金利政策を維持するための新たな政策指針を発表したことから、低金利環境が長期化すると期待が市場の下支え要因となりました。また、月を通じての株高が金利上昇圧力となったものの、追加経済対策を巡る協議が難航するなど、経済正常化への不確実性は依然として高く、変動幅の小さな展開となりました。月を通してみると、米国10年国債利回りは上昇しました。

【米国ハイ・イールド債券】

米国ハイ・イールド社債のスプレッド（米国国債に対する上乗せ利回り）は4月以降の縮小傾向が続きました。新型コロナウイルス感染の再拡大による企業の資金繰りなど先行き不透明感が高いものの、追加景気対策への期待や米連邦準備制度理事会（FRB）による緩和政策の継続、米株高などが引き続き市場心理を支えました。

【先進国債券（除く米国）】

欧州債券市場では、新型コロナウイルスの感染動向や米金融当局の金融政策などに注目が集まりました。域内は、夏季休暇での人々の移動による新型コロナ感染の再拡大に直面しており、ドイツでは公共交通機関などでマスク不着用者に罰金を科すといった対策の導入が決定し、またフランスでは、パリ全域の屋外でマスクの着用が義務化されました。米金融当局による新たな政策指針が発表されたことを受け、市場では、物価上昇や景気回復が後押しされるとの見方が強まりました。経済活動は正常化に向かっているものの、先行きへの不安材料は依然として残っており、金利は振れ幅の小さい展開となりました。月を通してみると、ドイツ10年国債利回りおよび英国の10年国債利回りは上昇しました。

【エマージング債券】

米ドル建てエマージング債券のスプレッド（上乗せ利回り）は4月以降の縮小傾向が続きました。新型コロナウイルスの感染拡大は収まっておらず、経済活動規制の再強化もみられるなど依然先行き不透明感が強い一方、先進国金融当局の資金供給スタンス、相対的に魅力的な利回り水準などが引き続き相場を支えました。

JPモルガン・EMBIグローバルの月間騰落率は+0.30%となりました。また、主要国の騰落率は、メキシコ+1.83%、ロシア+0.15%、ブラジル-0.06%となりました（いずれも米ドルベース）。

◆今後の見通し

米国債券市場では、低金利環境の長期化や追加の経済対策への期待が高まっているものの、景気の一段の下振れ懸念から、金利上昇圧力は限定的です。米連邦準備制度理事会（FRB）のクラリダ副議長は月末の講演で、政策の新指針では「低失業率だけでは利上げする理由にはならない」との見解を示した上で、今後は経済見通しの見直しやフォワード・ガイダンスを巡る議論を再開するとしました。追加の経済対策を巡る与野党協議は、依然として膠着した状態が続いており、9月以降の法案成立に向けた動向に注目が集まっています。米中対立激化や新型コロナウイルスの感染拡大など、先行きの不透明感はぬぐえず、米国の中長期金利は引き続き低下圧力を受けやすいものとみられています。

米連邦公開市場委員会（FOMC）が発表した政策指針の修正により、市場ではゼロ金利政策の長期化が見込まれています。新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う活動規制の再強化が企業業績へ与える影響や、デフォルト率の一段の上昇に対する懸念はぬぐえないものの、ゼロ金利政策の継続や追加の金融緩和策への期待が引き続き市場の下支えとなる見通しです。運用においては、これまで通り経済環境、発行体の格下げ及びデフォルト動向、市場の流動性などを注視し、慎重な姿勢を維持する方針です。個別企業の業績、財務状況への影響を慎重に見極め、バリュエーションや市場流動性を十分に考慮した上で銘柄選別を行ってまいります。

ユーロ圏では、新型コロナウイルス感染の再拡大の動向や金融緩和の追加策などに注目が集まっています。域内の新型コロナウイルスの新規感染者数が2020年初め以来の高水準に迫る中、市場では欧州中央銀行（ECB）が債券買い入れ等の支援策を年内に拡大するとの見方が強まっています。これに対して、ECBのシュナーベル専務理事は月末のインタビューで、現時点で追加の景気刺激策を導入する理由はないと述べ、9月の政策理事会での追加策の導入観測は後退しました。英国の欧州連合（EU）との自由貿易協定（FTA）締結などを巡る交渉は、目立った進展がないまま7回目の交渉を終えており、EU離脱の移行期間中に交渉が妥結するかに引き続き注目が集まっています。

新型コロナウイルス感染拡大の新興国経済への影響を慎重に見極めるべく、金利が替動向及び商品市況も引き続き注視しています。個別国毎に異なる政治経済環境やリスクに対する配慮を継続し、金融市場の変動性の高まり、投資家心理の変化、資金動向、市場の流動性に十分留意した上で、国や企業など発行体の信用力を徹底的に精査し、銘柄を選別してまいります。

※コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。また、為替相場等の影響により当ファンドおよび指数等の動向と異なる場合があります。

※本資料においてグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

収益分配金に関する留意事項

- 1 ファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、それぞれの投資者ご自身の個別元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 2 分配金は預貯金の利息とは異なり、分配金支払い後の純資産は減少し、基準価額の下落要因となります。
- 3 分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があります、その場合当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落します。

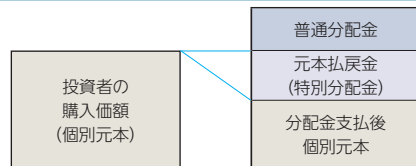
分配方針や頻度の異なるコースが存在する場合は、投資者は自身の選択に応じて投資するコースを選択することができます。販売会社によってはコース間でスイッチングが可能です。

- 1 投資者のファンドの購入価額によっては分配金はその支払いの一部、または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

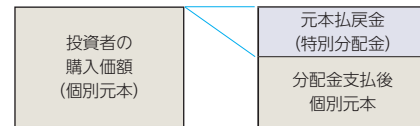
ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

ファンドの購入価額は、個々の投資者によって異なりますので、投資期間全体での損益は、個々の投資者によって異なります。

分配金の一部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合



- 「個別元本」とは、追加型投資信託の収益分配金や解約(償還)時の収益に対する課税計算をする際に用いる個々の投資者のファンドの購入価額のことを指します。
- 「普通分配金」とは、個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
- 「元本払戻金(特別分配金)」とは、個別元本を下回る部分からの分配金です。実質的に元本の払戻しに相当するため、非課税扱いとなります。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。

- 2 分配金は、預貯金の利息とは異なります。分配金の支払いは純資産から行なわれますので、分配金支払い後の純資産は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。

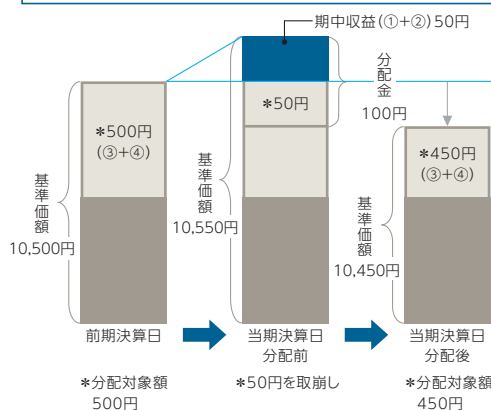
投資信託で
分配金が支払われる
イメージ



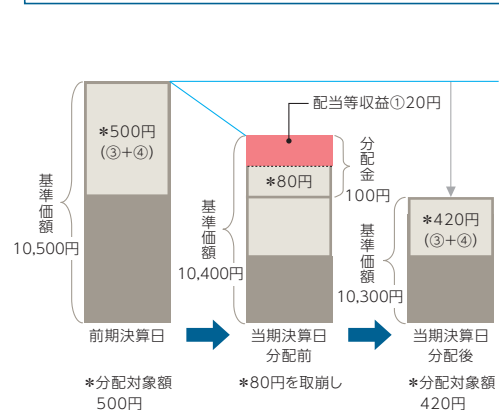
- 3 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。計算期間におけるファンドの運用実績は、期中の分配金支払い前の基準価額の推移および収益率によってご判断ください。

投資信託は、当期の収益の他に、ファンドの設定から当期以前の期間に発生して分配されなかった過去の収益の繰越分等からも分配することができます。

前期決算から基準価額が上昇
当期計算期間の収益がプラスの場合



前期決算から基準価額が下落
当期計算期間の収益がマイナスの場合



※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド Aコース(為替ヘッジ付き)/Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信／内外／債券

ファンドの特色

- 1 性格の異なる世界の代表的な4債券セクターへ投資することにより、リスク分散を図りながら、利息等収入の確保を図るとともに値上がり益の追求を目指します。
- 2 毎月決算を行いません。
- 3 米国国債／政府機関債、米国高利回り社債(ハイ・イールド・ボンド)、先進国債券(除く米国)およびエマージング債券を主要な投資対象として分散投資を行ない、利息等収入の確保と値上がり益の追求を目指します。
- 4 各投資対象についての長期的な分析から資産配分を算出し、長期的にこの配分を維持するアプローチを基本とした運用を行ないます。
- 5 異なる性格を持つ債券セクターを組み合わせることにより、ポートフォリオ全体のリスクの低減効果が期待できます。
- 6 債券等の発行体の信用力分析にあたっては、アナリストによる独自の企業調査情報等を活用し、計量分析も用いて銘柄の選別を行ないます。
- 7 ポートフォリオ構築にあたっては、分散投資を基本としリスク分散を図ります。
- 8 債券等の組入比率は、原則として高位を維持します。ただし、市況動向等により弾力的に変更を行なう場合があります。
- 9 Aコース(為替ヘッジ付き)は、為替ヘッジ付きのインデックスが存在しないため、ベンチマークを設定しません。Bコース(為替ヘッジなし)のベンチマークは、複合ベンチマーク(円ベース)^{*1}とします。

債券セクター	ベンチマーク	構成割合
米国国債/政府機関債	ブルームバーグ・バークレイズ米国政府債インデックス	30%
先進国債券(除く米国)	FTSE G7インデックス(除く米国、ヘッジなし) ^{*2}	15%
米国高利回り社債(ハイ・イールド・ボンド)	ICE BofA USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス	40%
エマージング債券	JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル	15%

*1 複合ベンチマーク(円ベース)は、複数の債券指数によって構成され当社で算出しているもので、上記の割合で構成されています。

*2 同指数は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合もあります。

※ファンドは「フィデリティ・ストラテジック・インカム・マザーファンド」を通じて投資を行ないます。上記はファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色および投資方針を含みます。

[運用の委託先]

マザーファンドにかかる運用につき、次の委託先に運用の指図に関する権限を委託します。

委託先名称	委託する業務の内容
FILインベストメンツ・インターナショナル(所在地:英国)	委託会社より運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドの先進国債券(除く米国)に関する運用の指図を行ないます。
フィデリティ・マネジメント・アンド・リサーチ・カンパニー・エルエルシー [*] (所在地:米国)	委託会社より運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドのアセット・アロケーション、米国国債/政府機関債、米国高利回り社債(ハイ・イールド・ボンド)、エマージング諸国等に関する運用の指図を行ないます。

*当該運用の委託先は2020年1月1日付でフィデリティ・マネジメント・アンド・リサーチ・カンパニーから名称を変更しています。

投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。

ファンドが有する主なリスク等(ファンドが主に投資を行なうマザーファンドが有するリスク等を含みます。)は以下の通りです。

主な変動要因

価格変動リスク	基準価額は有価証券等の市場価格の動きを反映して変動します。有価証券等の発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなる場合があります。
信用リスク	有価証券等への投資にあたっては、発行体において利払いや償還金の支払いが遅延したり、債務が履行されない場合があります。なお、ハイ・イールド債およびエマージング・マーケット債に投資を行なう場合には、上位に格付された債券に比べて前述のリスクが高くなります。

フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド

Aコース(為替ヘッジ付き)/Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信／内外／債券

金利変動リスク	公社債等は、金利の変動を受けて価格が変動します。一般に金利が上昇した場合には債券価格は下落し、金利が低下した場合には債券価格は上昇します。
為替変動リスク	Aコース(為替ヘッジ付き)は為替ヘッジを行なうことで、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行なう際には当該通貨と円の金利差相当分のヘッジコストがかかる場合があります。Bコース(為替ヘッジなし)は為替ヘッジを行わないため、外貨建の有価証券等に投資を行なう場合には、その有価証券等の表示通貨と日本円との間の為替変動の影響を受けます。
エマージング市場に関わるリスク	エマージング市場(新興諸国市場)への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券の価格変動が大きくなる場合があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

クーリング・オフ	ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
----------	--

上記の他、Bコース(為替ヘッジなし)には下記の留意点もあります。

ベンチマークに関する留意点	ファンドのパフォーマンスは、ベンチマークを上回る場合もあれば下回る場合もあり、ベンチマークとの連動を目指すものではありません。また、投資対象国または地域の市場の構造変化等によっては、ファンドのベンチマークを見直す場合があります。
---------------	--

フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド Aコース(為替ヘッジ付き)/Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/債券

お申込みメモ

商品の内容やお申込みの詳細についての照会先	委託会社	フィデリティ投信株式会社
	インターネットホームページ	https://www.fidelity.co.jp/
	フリーコール	0120-00-8051 (受付時間: 営業日の午前9時~午後5時)
	上記または販売会社までお問い合わせください。	
購入単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。	
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。	
購入代金	販売会社が定める期日までに、お申込みの販売会社にお支払いください。	
換金単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。	
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。	
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から、お申込みの販売会社にてお支払いします。	
申込締切時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社が受付けたものを、当日のお申込み受付分とします。	
購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日においては、スイッチングを含めお申込みの受付は行ないません。	
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行なうため、大口のご換金には別途制限を設ける場合があります。	
信託期間	原則として無期限(1998年9月30日設定)	
繰上償還	ファンドの受益権の残存口数がAコース(為替ヘッジ付き)及びBコース(為替ヘッジなし)の合計で30億口を下回った場合等には、繰上償還となる場合があります。	
決算日	原則、毎月20日 ※決算日にあたる日が休業日となった場合、その翌営業日を決算日とします。	
ベンチマーク	「ファンドの特色」をご覧ください。	
収益分配	年12回の決算時に、収益分配方針に基づいて、分配を行ないません。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 販売会社との契約によっては、収益分配金は、税引き後無手数料で再投資が可能です。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。	
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」、「ジュニアNISA」の適用対象です。	
スイッチング	販売会社によっては、各コース間にてスイッチングが可能です。スイッチングに伴うご換金にあたっては、通常のご換金と同様に税金がかかります。 ※スイッチングの取扱い内容等について、詳しくは、販売会社へお問い合わせください。	

ファンドの費用・税金

購入時手数料	3.30%(税抜3.00%)を上限 として販売会社が定めます。 ※詳しくは、お申込みの販売会社にお問い合わせください。
換金時手数料	ありません。
スイッチング手数料	販売会社によってはスイッチング手数料がかかる場合があります。詳しくは、販売会社へお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。
運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に対し、 年1.573%(税抜1.43%) の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、ファンドの毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。
その他費用・手数料	組入有望証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用等は、ファンドからその都度支払われます。ただし、運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示できません。 法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して年率0.10%(税込)を上限とする額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、毎年1月及び7月に到来する計算期末または信託終了のときに、ファンドから支払われます。
税金	原則として、収益分配時の普通分配金ならびにご換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 税法が改正された場合等には、上記内容が変更になる場合があります。

※当該手数料・費用等の上限額および合計額については、お申込み金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ファンドの費用・税金の詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド Aコース(為替ヘッジ付き)/Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/債券

委託会社、その他の関係法人

委託会社	フィデリティ投信株式会社【金融商品取引業者】関東財務局長(金商)第388号 【加入協会】一般社団法人 投資信託協会 一般社団法人 日本投資顧問業協会 信託財産の運用指図などを行ないます。
受託会社	三井住友信託銀行株式会社 信託財産の保管・管理・計算、外国証券を保管・管理する外国の金融機関への指示・連絡などを行ないます。
運用の委託先	FILインベストメンツ・インターナショナル(所在地:英国) 委託会社より運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドの先進国債券(除く米国)に関する運用の指図を行ないます。 フィデリティ・マネジメント・アンド・リサーチ・カンパニー・エルエルシー(所在地:米国) 委託会社より運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドのアセット・アロケーション、米国国債/政府機関債、米国高利回り社債(ハイ・イールド・ボンド)、エマージング諸国等に関する運用の指図を行ないます。
販売会社	販売会社につきましては、委託会社のホームページ(アドレス: https://www.fidelity.co.jp/)をご参照または、フリーコール:0120-00-8051(受付時間:営業日の午前9時~午後5時)までお問い合わせいただけます。 ファンドの募集の取扱い、一部解約の実行の受付、収益分配金の再投資ならびに収益分配金・償還金・一部解約金の支払いなどを行ないます。

- 当資料はフィデリティ投信によって作成された最終投資家向けの投資信託商品販売用資料です。投資信託のお申込みに関しては、以下の点をご理解いただき、投資の判断はおお客様ご自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。
- 投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。また、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入していません。
- 「フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンドAコース(為替ヘッジ付き)/Bコース(為替ヘッジなし)」が投資を行なうマザーファンドは、主として米国国債、政府機関債、米国高利回り社債(ハイ・イールド・ボンド)、先進国の債券およびエマージング諸国の債券等の外貨建債券を投資対象としていますが、株式を含むその他の有価証券に投資することもあります。
- ファンドの基準価額は、組み入れた債券、株式その他の有価証券の値動き、為替相場の変動等の影響により上下しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、組み入れた債券、株式その他の有価証券の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。さらに、米国高利回り社債およびエマージング諸国の債券については上位に格付けされた債券に比べて、利払い・元本返済の不履行または遅延等のいわゆるデフォルト・リスクが高い傾向にあります。すなわち、保有期間中もしくは売却時の投資信託の価額はご購入時の価額を下回ることもあり、これに伴うリスクはおお客様ご自身のご負担となります。
- ご購入の際は投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ずお受取りのうえ内容をよくお読みください。
- 投資信託説明書(交付目論見書)については、販売会社またはフィデリティ投信までお問い合わせください。なお、当ファンドの販売会社につきましては以下のホームページ(<https://www.fidelity.co.jp/>)をご参照ください。
- 当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。
- 当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りいたします。

■フィデリティ・ストラテジック・インカム・ファンド Aコース(為替ヘッジ付き) 販売会社情報一覧(順不同)

金融商品取引業者名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社イオン銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社池田泉州銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第6号	○		○	
エース証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第6号	○			
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○		○	
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第3号	○		○	
OKB証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第191号	○			
株式会社京都銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第10号	○		○	
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第10号	○			
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第188号	○			
株式会社新生銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○	
スルガ銀行株式会社	登録金融機関 東海財務局長(登金)第8号	○			
ソニー銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第578号	○		○	○
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
株式会社名古屋銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第19号	○			
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長(金商)第75号	○			
野村證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第152号	○			
株式会社福岡銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第7号	○		○	
株式会社北越銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第48号	○		○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
株式会社三重銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第11号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

* 上記情報は当資料作成時点のものであり、今後変更されることがあります。
販売会社によってお申込みの条件、制限等が異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

CSIS200330-3